

活躍する同級生

備前焼陶芸家として：

備前焼六性窯元桃蹊堂十八代

備前焼陶芸家 木村英昭



備前焼六性窯元桃蹊堂十八代備前焼陶芸家として、国内外で活躍されている木村英昭さん（1994年卒業）。多岐にわたるフィールドで作品を発表し、名古屋学院大学同窓生として異色ともいえる木村さんの活躍ぶりを同窓生の皆様に知っていただくため、プロフィールと代表作品を掲載し紹介します。

に従事。第7回あかりのオブジェ展（岐阜）、第24回長三賞陶芸展（愛知）、第46回岡山県美術展（岡山）など公募展に出品し入選。また、グループ展にて作品を積極的に発表するなど若手陶芸家として注目を集めました。

1996年にはスペイン、バルセロナ・マサナ美術学校（陶芸科専攻）に留学し、陶芸を学ぶかたわら学校とは別に約50人を取替できるアトリエ、エル・サブマリノ内の一室を借り、各国のアーティストと交流を深めながら、作品づくりに邁進します。翌年、学校で彫刻科を専攻、バルセロナ市主催のタシエール・アビエルト98（アトリエ・般公開）に参加。

1998年オーストラリア、シドニー近郊の町ゴゴゴンで開催された陶芸祭を視察。そのとき、国際陶芸家ネットワーク・マンズフィールド氏と出会い、クイーンズランド州ブリスベン陶芸協会に招待され作陶することになります。そこで、アントニー・プリング氏とも出会い、人脈を広げながら交流を深めていきます。

また、伝統ある備前焼にこだわりつつも、新たな境地を切り開くべく、名古屋の現代美術作家・日比野貴之氏とのコラボレーションユニット「MENSURE」を結成。備前焼と現代美術の融合作品を国内外で発表。

2000年4月には名古屋・栄のイタリアン・レストラン「トラトリア・ババゴロ」の店内装飾を日比野氏プロデュースにより、あかりのオブジェの制作・設置を手掛けています。

WASABIJUN

若者の人気番組「ASAYANI」

海外進出企画でN.Y.大個展



同年6月には、WASABIJUN若者に人気の高いテレビ東京の番組「ASAYANI」で、海外進出企画「新機軸第2陣N.Y.大個展」に選ばれ、作品「和」

「Japanese soul」を出品。また8月には「WASABIJUN」にインド政府のBest of Parliamentの表彰式とパーティーに招待され、インド政府首脳陣、経済界、文化人、各国の在インド大使などの方々と交流を深め、作品もインド政府所蔵となり、芸術文化交流展も開催されています。

木村さんの精力的な作陶ぶりは今、備前焼の若手陶芸家として熱い注目を集めています。



写真左 木村英昭さん
写真右 日比野貴之さん

WASABI

（木村英昭、日比野貴之）

名前の由来は日本のSOUL、「わびさび」を訳して命名。基本コンセプトは、日本の伝統を守り、新たな表現を追求し、世界各地で展示会やイベントを開催し、芸術を通じて文化交流をすること。

作品は、平面・立体、陶芸、インスタレーション（据え付け）、ビデオアートなど、単体・複合作品を共同制作し、世界で発表しています。

木村英昭氏 主な作品紹介



向火土（ひまわり）

向火土シリーズは彼がスペインから帰国してから出衆上がった作品。この作品はバランスよく、流動性のあるデザインが特徴です。



春の訪れ

タイトル通り春の到来を視角で感じさせてくれる作品。まだ蕾でも内には成熟していて、外へ飛び出す日を心待ちにしている様子が伝わってきます。

木村英昭さんの活動の詳細は、名古屋学院大学同窓会ホームページ内の品野台コネクションにリンクを貼っています。木村さんのお名前をクリックしていただければご覧になることができます。